

西光寺だより

第二三七号 令和四年 一月一日発行

明けましておめでと〜うございませう。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

二〇二二年、新しい年がはじまりました。

昨年の元旦会法要は、感染症の影響で中止とさせていただきますが、本年は感染者数が減ったこともあり、厳修いたしました。

まだまだ感染症の影響を鑑みましての法要でありましたが、例年の行事がこれほど新鮮であったのかと思ひながらお勤めをいたしました。

蓮如上人は年の始めに、勸修寺村の道德という人物に次のように仰られています。

「道德はいくつになるぞ

道德念仏申さるべし」

これはおそらく新年のお参りに道德が来た時の出来事。儀礼的に挨拶をした道德に、日常に追われていないか？常に仏の教えに向き合っているか？と改めて問うものだったのだと思ひます。

一年また一年と、年を重ねることは、決してあたり前のことではなく、私自身にも、やがてこの世の縁の尽きる時が来ます。

蓮如上人は元旦の今、氣持ち新たに自分の生き方を見直しなさいと伝えて思ひます。

阿弥陀如来は、はかなき私たちを哀れみ慈しんで、念仏せよとはたらきかけておられます。

今私たちは、真実の教えに出あい、念仏申す身となって、大いなる

安心のなかに人生を歩んでいます。

新たな年の始まりを、念仏とともに迎えることは、何よりも大きな喜びである。

そんな思ひで本年も進んでいきたいと思ひます。

合掌

◆先月の報告◆

十二月三十一日（金）西光寺鐘楼にて除夜の鐘を撞きました。とても寒く、雪がちらつく中での除夜でありました。

昨年大変な一年でありましたが、一日一日を無事に終え、見守られている安心を感じながら、今を生きる。そんな除夜でありました。

感染予防のためお茶の接待は中止としましたが、本堂でのお参りはご自由にとりまして皆さん手を合わせておられました。

お寒い中ではありましたが、こうして年を終えることが出来たこと、感謝であります。ありがとうございました。

